

「はたらき」を化学する

個人投資家向けWEB説明会

化学のちからで 化学の枠を越える。

三洋化成
代表取締役社長
樋口 章憲

 **WakuWaku**
Interface Innovator

1. 三洋化成の概要



1-1. 三洋化成の概要

三洋化成の概要

- 創 立 : 1949年（昭和24年）11月1日
- 本 社 : 京都市東山区
- 資 本 金 : 13,051百万円
- 事 業 拠 点 : 日本、米国、中国、韓国、台湾、タイ、マレーシア
- グ ル ー プ : 国内5社、海外9社、物流・サービス2社
(連結子会社12社、持分法適用会社3社)
- 従 業 員 数 : 連結 2,123名 [2022年9月30日現在]
- 事 業 内 容 : 約3,000種類のパフォーマンス・ケミカルス
(機能化学品) の製造・販売

三洋化成の起源

1907年 多田石鹼油脂製造所創立



京都にある広大な茶畑を切り拓き石鹼工場を建設
(現在の三洋化成京都工場辺り)

当時の国産石鹼は品質が悪く、舶来品並みの
高品質な石鹼をつくりたいという想い



石鹼製造技術 = 界面活性剤（有機）合成技術

石鹼事業から繊維処理剤等へと事業を展開し、研究開発・技術開発力に
優れた会社へ

**100年以上にわたり培ってきた研究開発力、
界面制御技術の深耕こそが、三洋化成の利益の源泉**

三洋化成の創立



1943年 三洋油脂（株）創立

*三井物産(75%),東洋レーヨン(25%)出資



1949年 三洋油脂工業（株）創立
(1963年、三洋化成工業（株）へ社名変更)

会社設立時の株主総会 (S24.11)

- ◇1978年東証1部、大証1部に上場
- ◇2022年東証プライム市場へ移行

**社会ニーズに化学（界面制御）技術で応えつづけ
現在では、3,000種類に及ぶ製品を製造販売**

三洋化成の本社および研究所



本社・本社研究所（京都市東山区）



研究第2棟（同、東山区）



桂研究所（同、西京区）

国内生産拠点



京都工場・本社・研究所
(東山区、約2.6万m²)



鹿島工場
(茨城県神栖市、約13.0万m²)



名古屋工場
(愛知県東海市、約10.0万m²)



衣浦工場
(愛知県半田市、約14.0万m²)



サンケミカル 川崎工場
(神奈川県川崎市、約1.1万m²)



海外生産拠点

 三洋化成精細化学品（南通）有限公司

 三大雅精細化学品（南通）有限公司



韓国三洋化成製造株式会社



SDP GLOBAL(MALAYSIA)SDN.BHD.



Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.



Sanyo Chemical Texas Industries, LLC

海外營業拠点

 三洋化成(上海)貿易有限公司
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd.
DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.



 韓国三洋化成株式会社
San Nopco (Korea) Limited

 Sanyo Chemical America Inc.

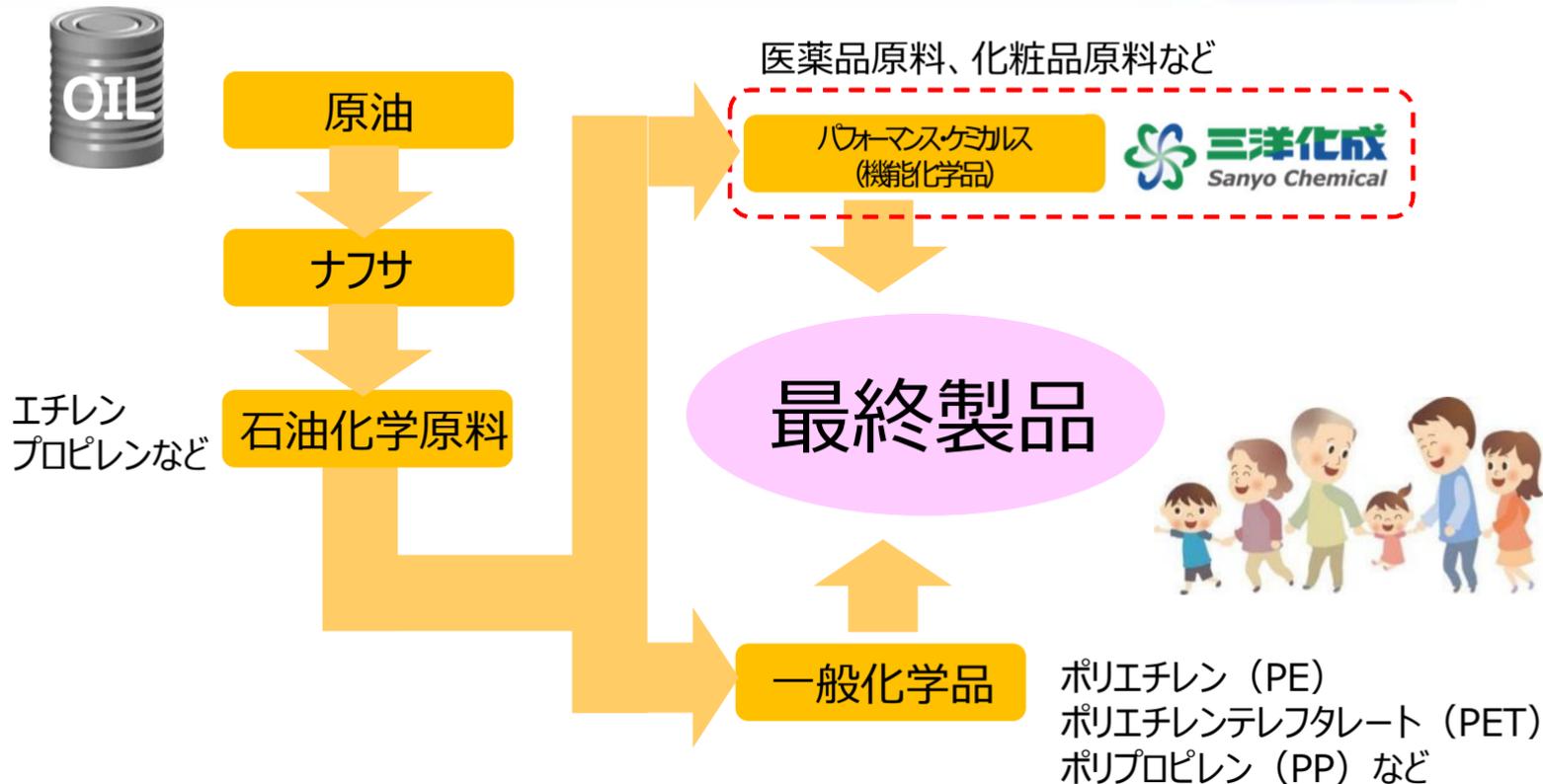


 台湾三洋化成股份有限公司

 Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.



サプライチェーン内での位置づけ



三洋化成のパフォーマンス・ケミカルス



- 組成（何でできているか）ではなく、機能・性能（何が出来るか）で利用される化学品
- 末端商品はなく、ユーザーでさらに加工される（B to B企業）
- 自動車、繊維、トイレタリー、電気・電子、樹脂など多くの産業で活躍
- 地球環境に配慮した製品開発



1-2. 三洋化成の社風

-社是-

企業を通じてよりよい社会を建設しよう

-目指す企業像-

グローバルに、ユニークな優良企業グループへ

優良企業・・・ 「経済的要素」や「社会的要素」のみでなく
従業員の「働きがい」や「誇り」「幸せ」が重要

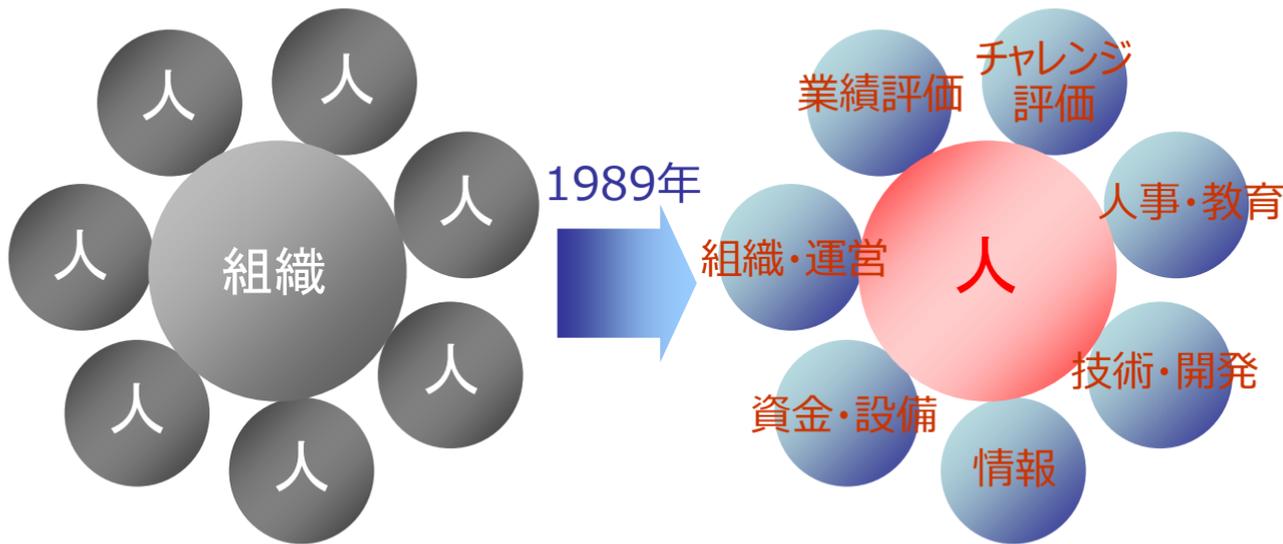
“人”中心の経営

研究開発重視



三洋化成の“人”中心の経営

組織中心の経営システムから、“人”中心の経営システムへ



組織の周りに人を配置
組織に規制され、
“働きがい”を追求しにくい

人の周りに手段を配置
自分の判断で行動し、
“働きがい”を追求できる
(有言実行が原則)

人事制度・風土改革



2018年8月～

1年365日、**完全服装自由化を導入**。ドレスコードも一切設定なし。

従業員一人ひとりが各自の判断で自由な服装を着用

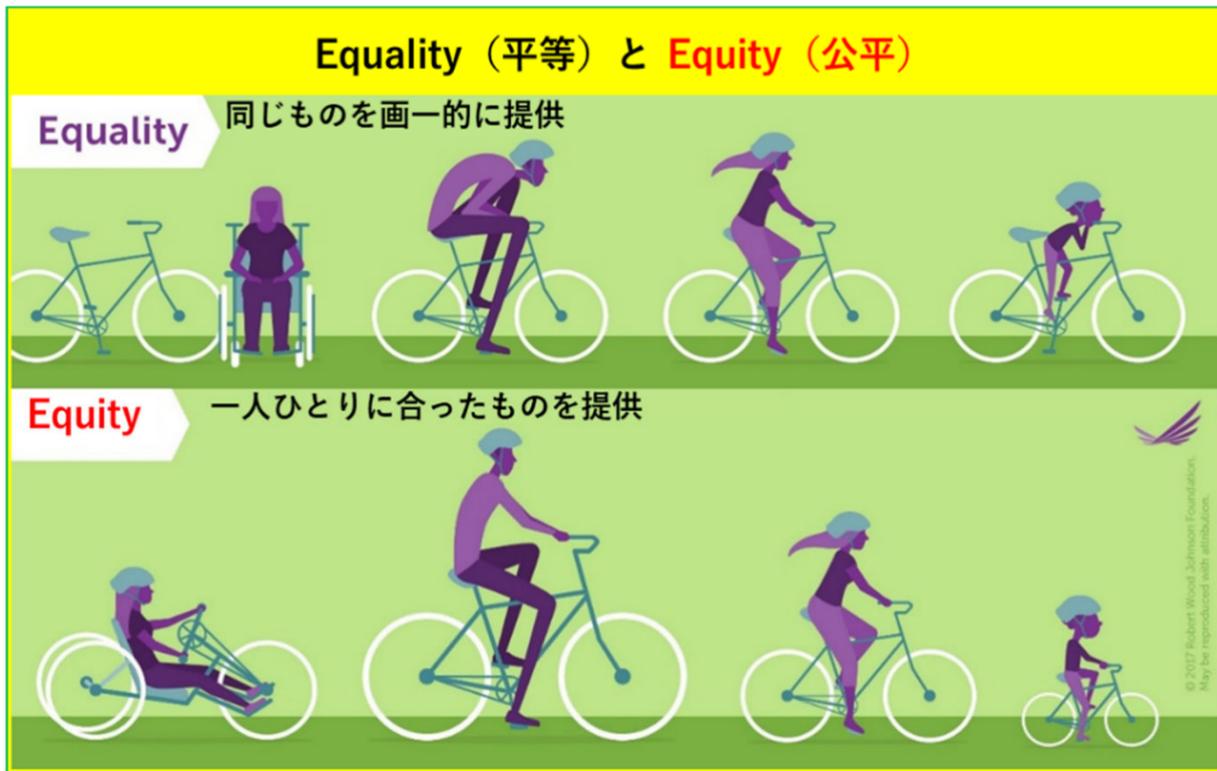
TOP自らが率先して服装自由化を取り入れ、働き方改革への本気度を示すとともに、従業員へ「**変える。**」意識の浸透を図る

**スモールスタートでまずはやってみること！
ダメなら戻せばいい、出来ないと思っ
ていては絶対にできない**



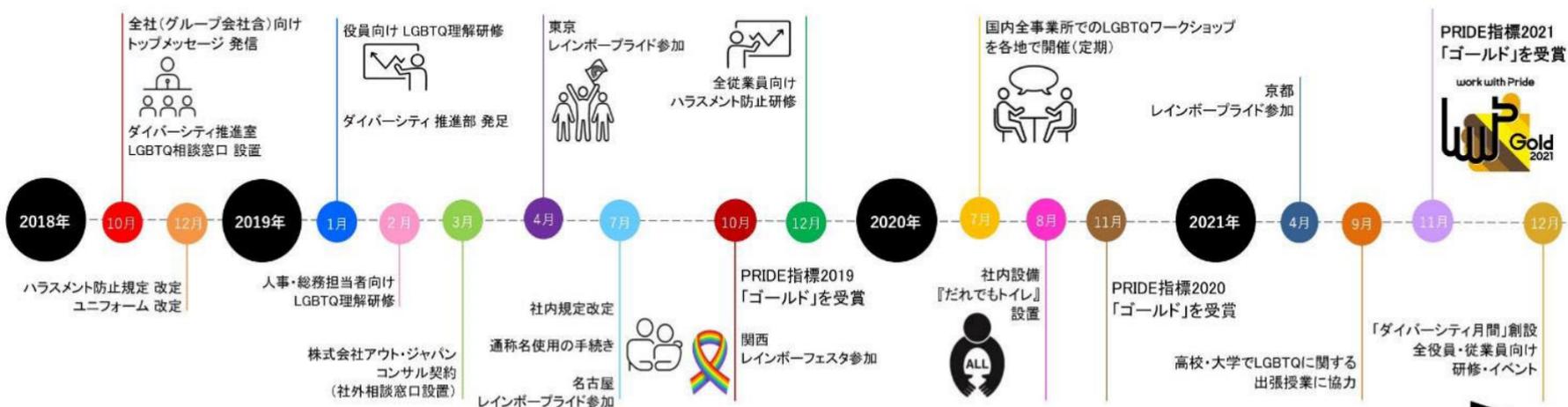
三洋化成のDEI(Diversity, Equity & Inclusion)

「自分らしさを大切に」を実現させるEquity（公平）の観点を加えたDEI推進をより一層加速



LGBTQへの取り組み

10人に1人はLGBTQである事実(左利き・血液型AB型の人と同程度)
グループ社員約2,000名。すなわち…

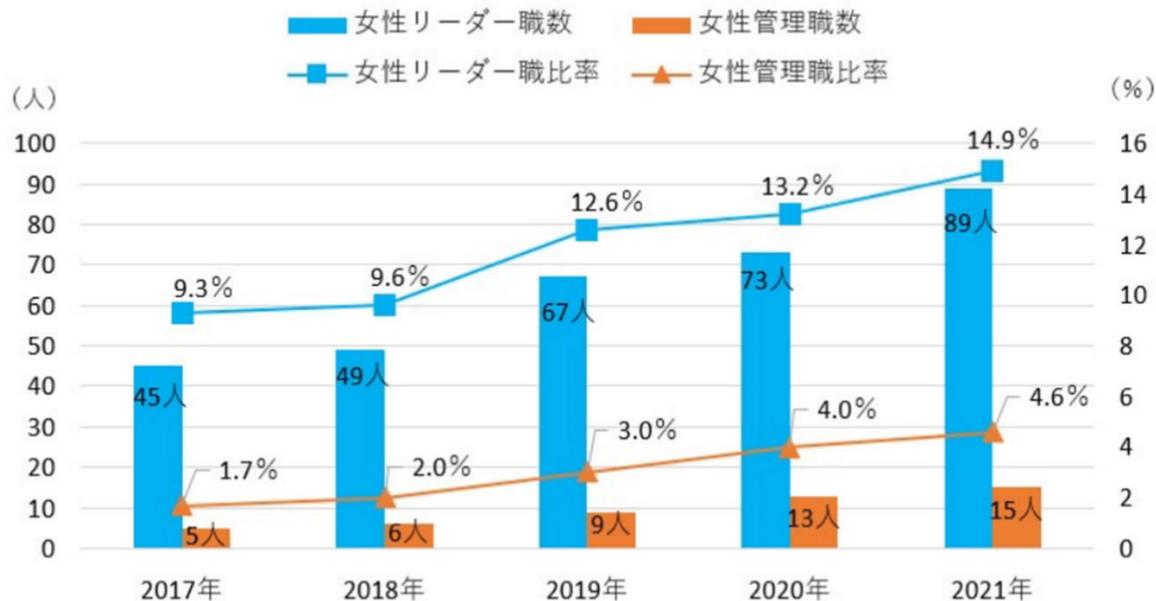


LGBTQに関する理解促進やインナープロモーションを進め、
多様な価値観を尊重する環境づくりを推進

- 1 管理職向け部下育成セミナー
- 2 女性ネットワークセミナー
自分のキャリアデザインを考える
- 3 21世紀職業財団主催の塾・セミナー
社内公募で選抜された女性社員が塾やセミナーに参加
- 4 他社女性社員との意見交換・交流会
異業種の女性社員との意見交換・交流会
- 5 育休復職者支援セミナー
子育てと両立しながらキャリア形成、社内ネットワークづくり、「目指す姿」を考える
- 6 育休前・復職前面談
- 7 社長と女性社員の昼食会
- 8 職域拡大（計画的ローテーション）



女性リーダー職数と管理職者数



2023年度までに女性リーダー職比率を15%以上、
女性管理職比率を6%以上に増やす

2. 三洋化成の業績



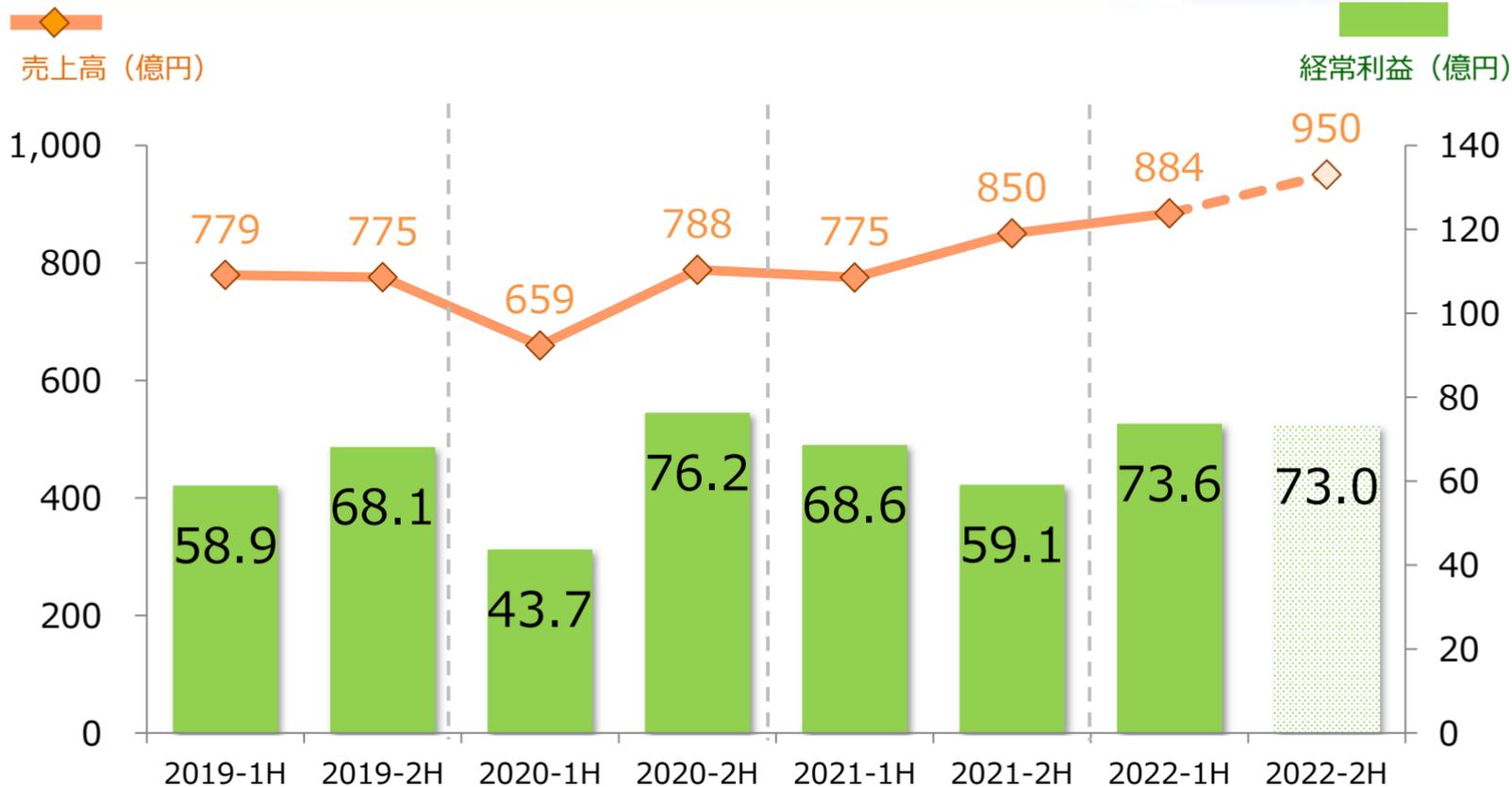
2-1. 三洋化成の業績

2023年3月期第2四半期決算

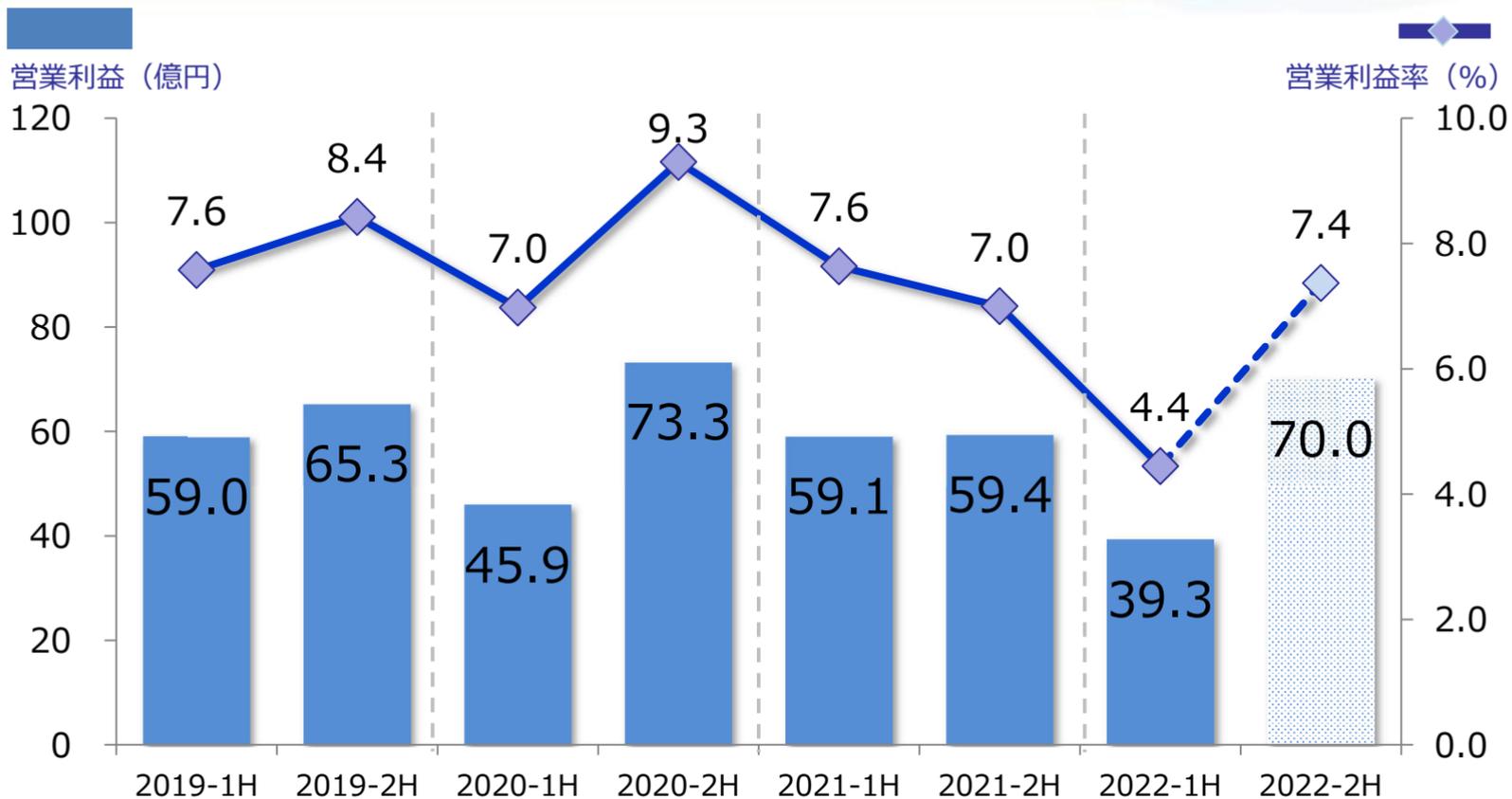
(億円, %)

連結	'22年3月期 第2四半期	'23年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	775.1	884.3	109.2	14
営業利益	59.1	39.3	▲19.8	▲34
経常利益	68.6	73.6	5.0	7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	44.1	47.1	3.0	7
包括利益	42.4	63.2	20.8	49

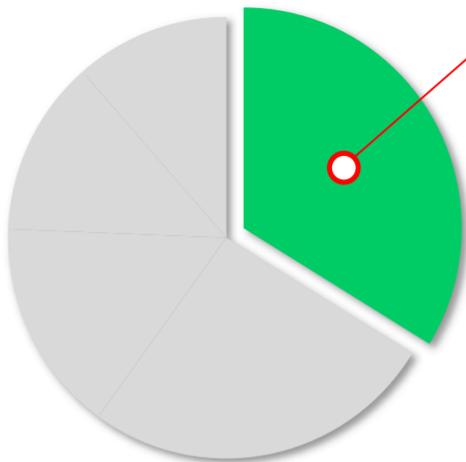
連結業績の推移(半期)



連結営業利益(同率)の推移(半期)



界面活性剤ビジネスは、三洋化成創業以来のコアビジネスの一つ。
シャンプー・リンス、液体洗剤用原料となる界面活性剤や、1978年、世界に先駆けて
商業生産を開始した高吸水性樹脂（SAP）は紙おむつの製造に不可欠な製品です。



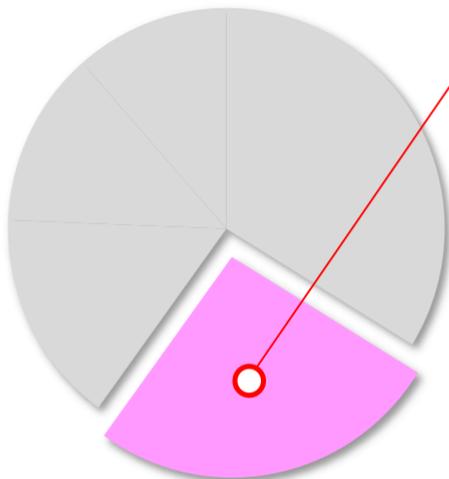
生活・健康産業関連

連結売上高

549億円

2022年3月期（2021年度）

自動車用途を中心とする本セグメントは、自動車シートの材料となるポリウレタンフォーム用原料をはじめ、自動車用潤滑油に使われる添加剤（粘度指数向上剤）、自動車内装表皮材用ウレタンビーズなどを販売しています。



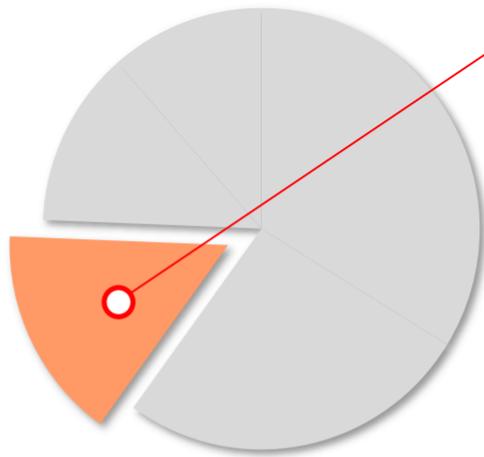
石油・輸送機産業関連

連結売上高

425億円

2022年3月期（2021年度）

身の回りで幅広く活躍するプラスチック製品に付加価値（機能）を付与する製品を数多く販売しています。半永久的に効果が持続する永久帯電防止剤や、繊維産業関連では、風力発電の風車などに使用される炭素繊維の製造用薬剤などを販売しています。



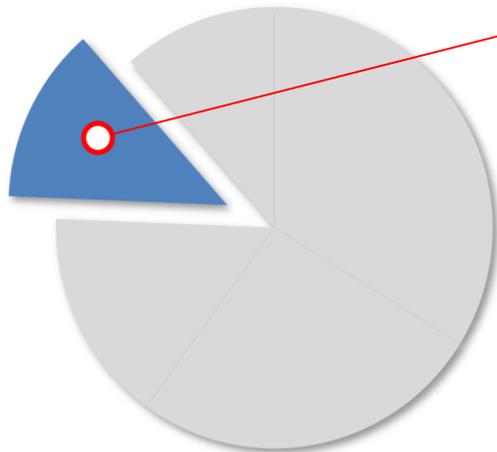
プラスチック・繊維産業関連

連結売上高

254億円

2022年3月期（2021年度）

情報産業は、複写機やプリンターに使われる重合トナー中間体ポリエステルビーズや、トナーバインダーなどを販売しています。電気電子産業関連製品では、自動車の電装部品や家電、パソコンなどに使用されるアルミ電解コンデンサ用電解液など幅広く取り扱っています。



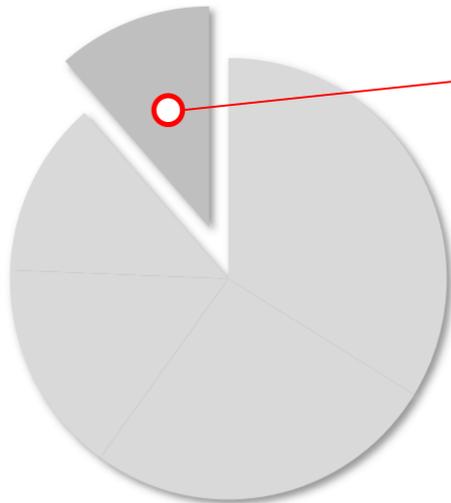
情報・電気電子産業関連

連結売上高

209億円

2022年3月期（2021年度）

環境産業関連製品では、産業廃水の汚濁物の沈降を促進させる高分子凝集剤用原料や、地中を掘削する際に使用する泥水用薬剤を販売しています。住設産業関連製品では、家具・断熱材などに使われるポリウレタンフォーム用原料などを販売しています。



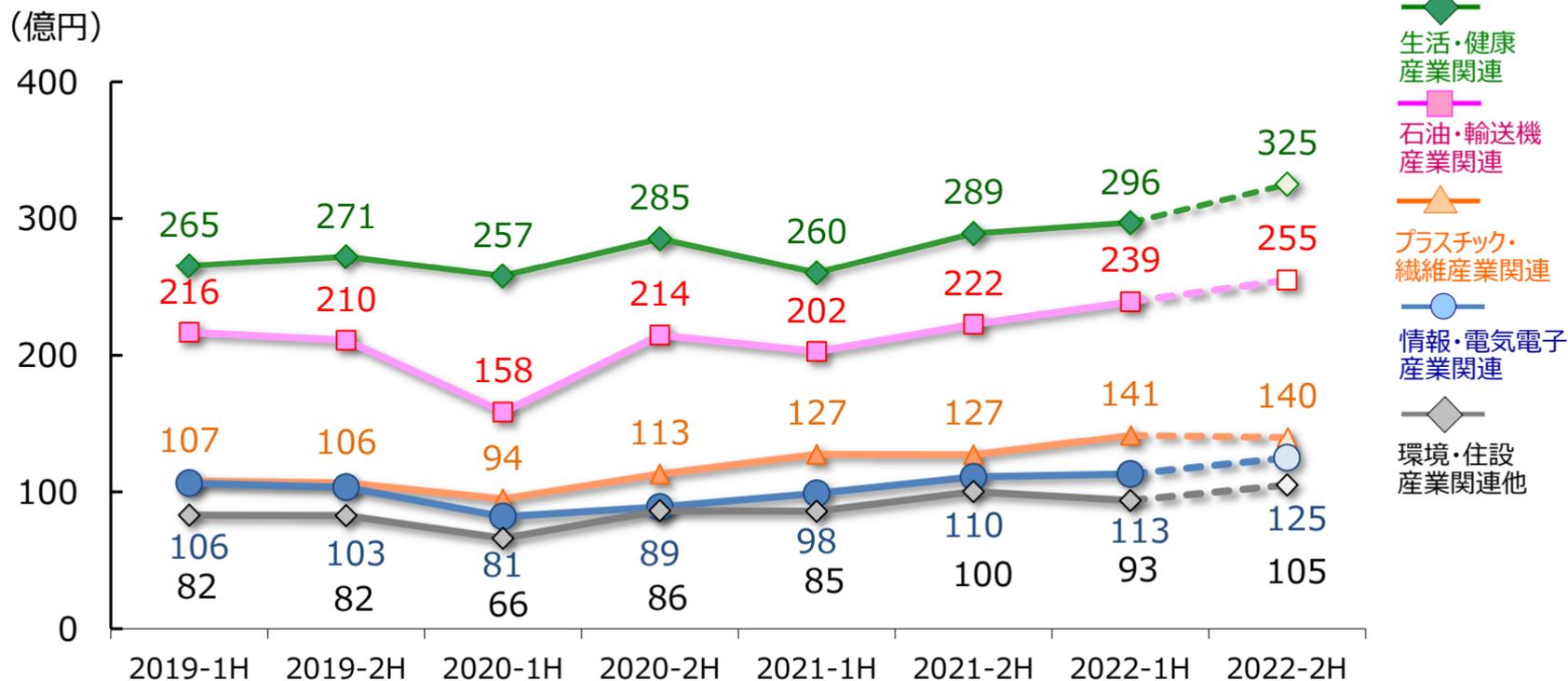
環境・住設産業関連他

連結売上高

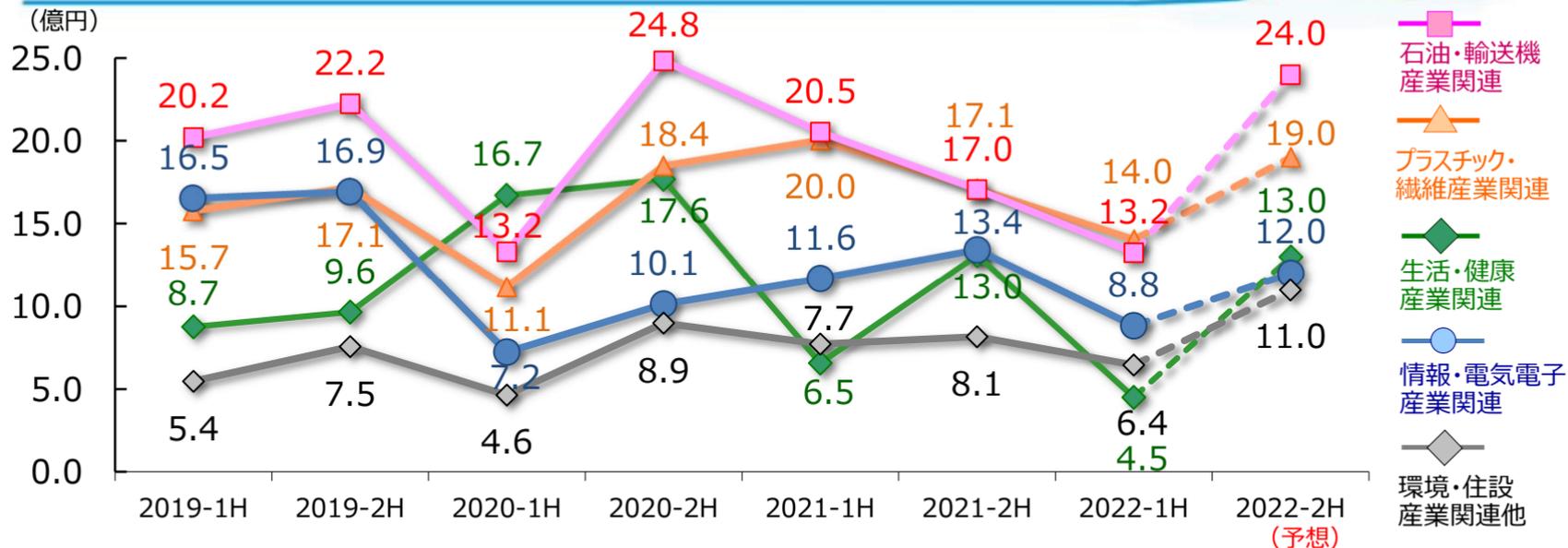
186億円

2022年3月期（2021年度）

連結産業分野別売上高の推移(半期)



連結産業分野別営業利益の推移(半期)



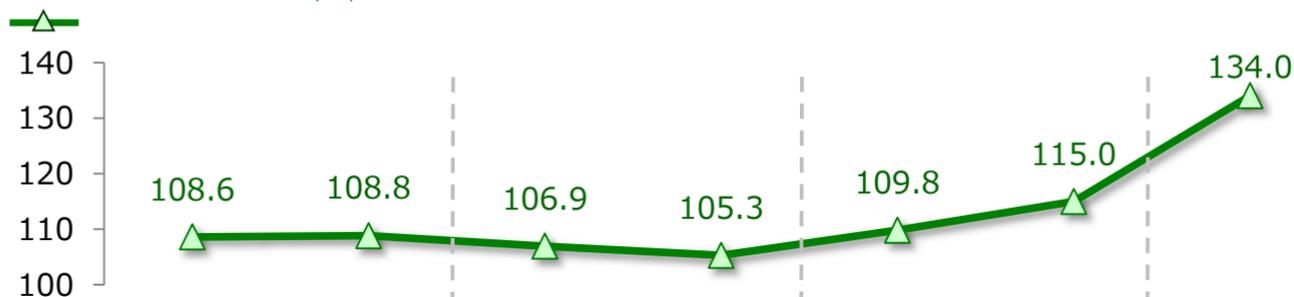
新規事業に係る研究開発費 (億円) *

'20年3月期		'21年3月期		'22年3月期		'23年3月期	
1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H (予想)
▲7.6	▲8.2	▲7.0	▲6.7	▲7.3	▲9.3	▲7.7	▲9.0

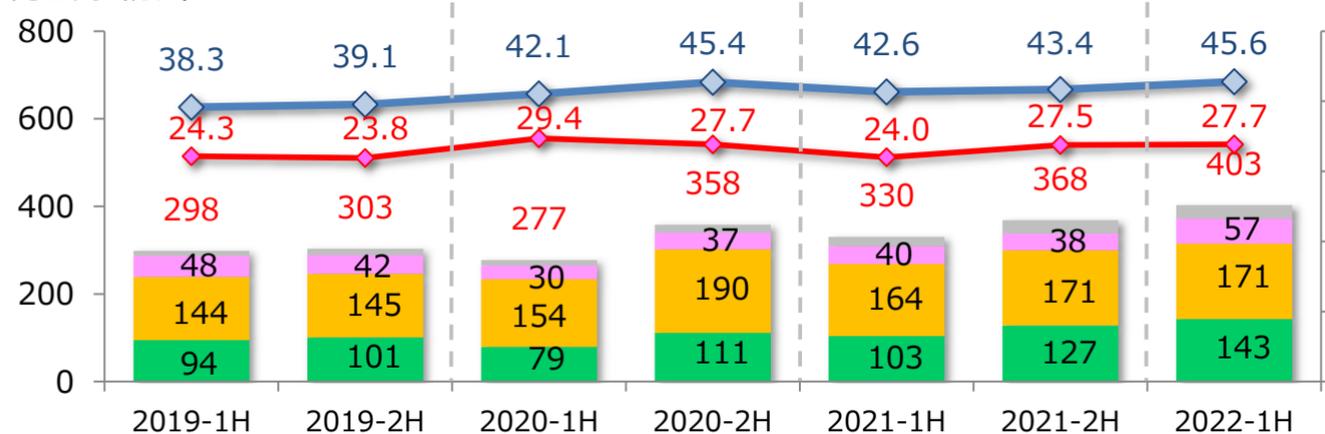
* 従来各報告セグメントに配分しておりました新規事業に係る研究開発費を全社費用として計上し、欄外に記載しております。

海外売上高の推移(半期)

為替 (期中平均) (円 / \$)



売上高 (億円)

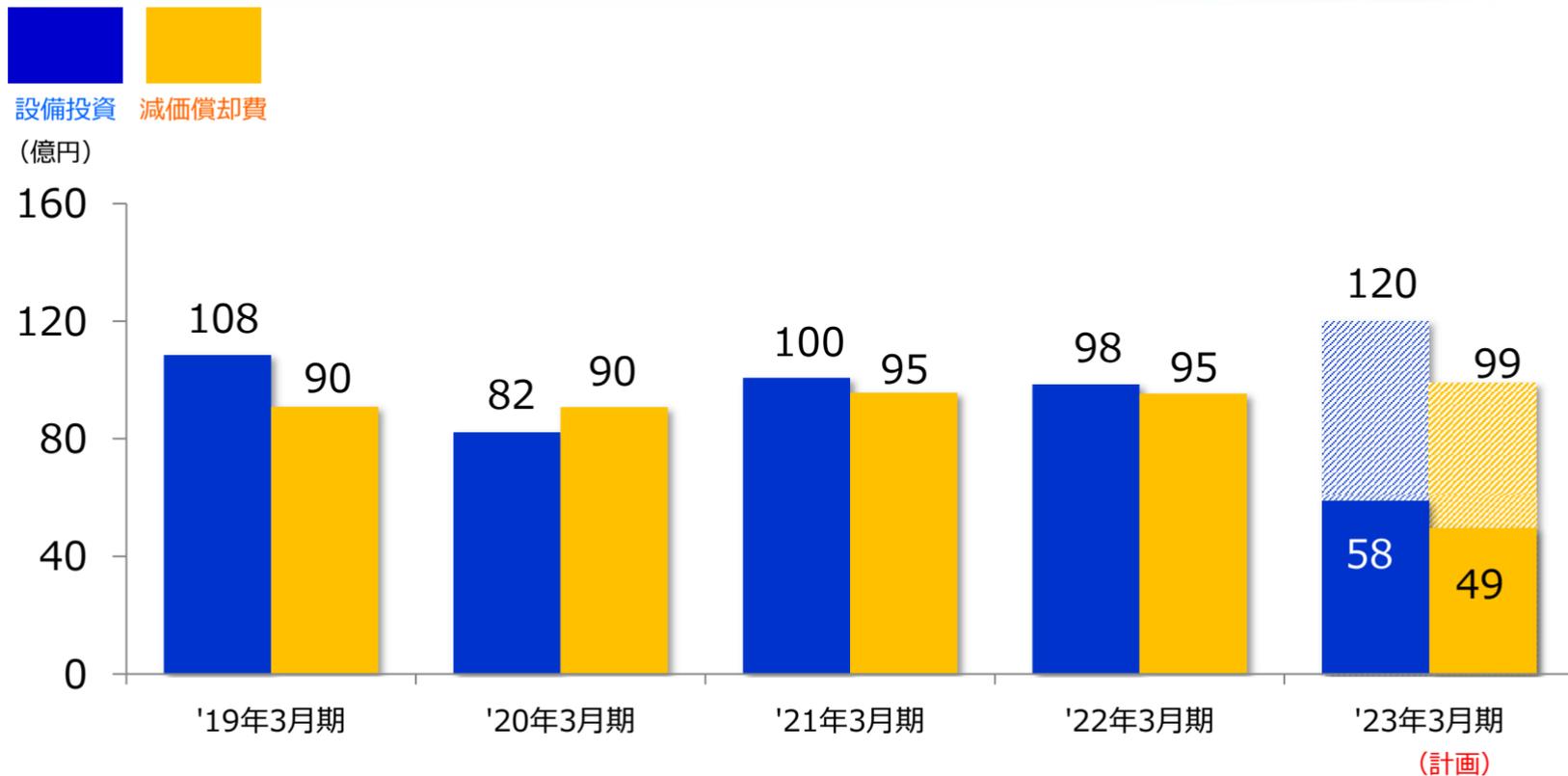


海外売上高比率 (%)

海外生産高比率 (%)



設備投資と減価償却(連結)

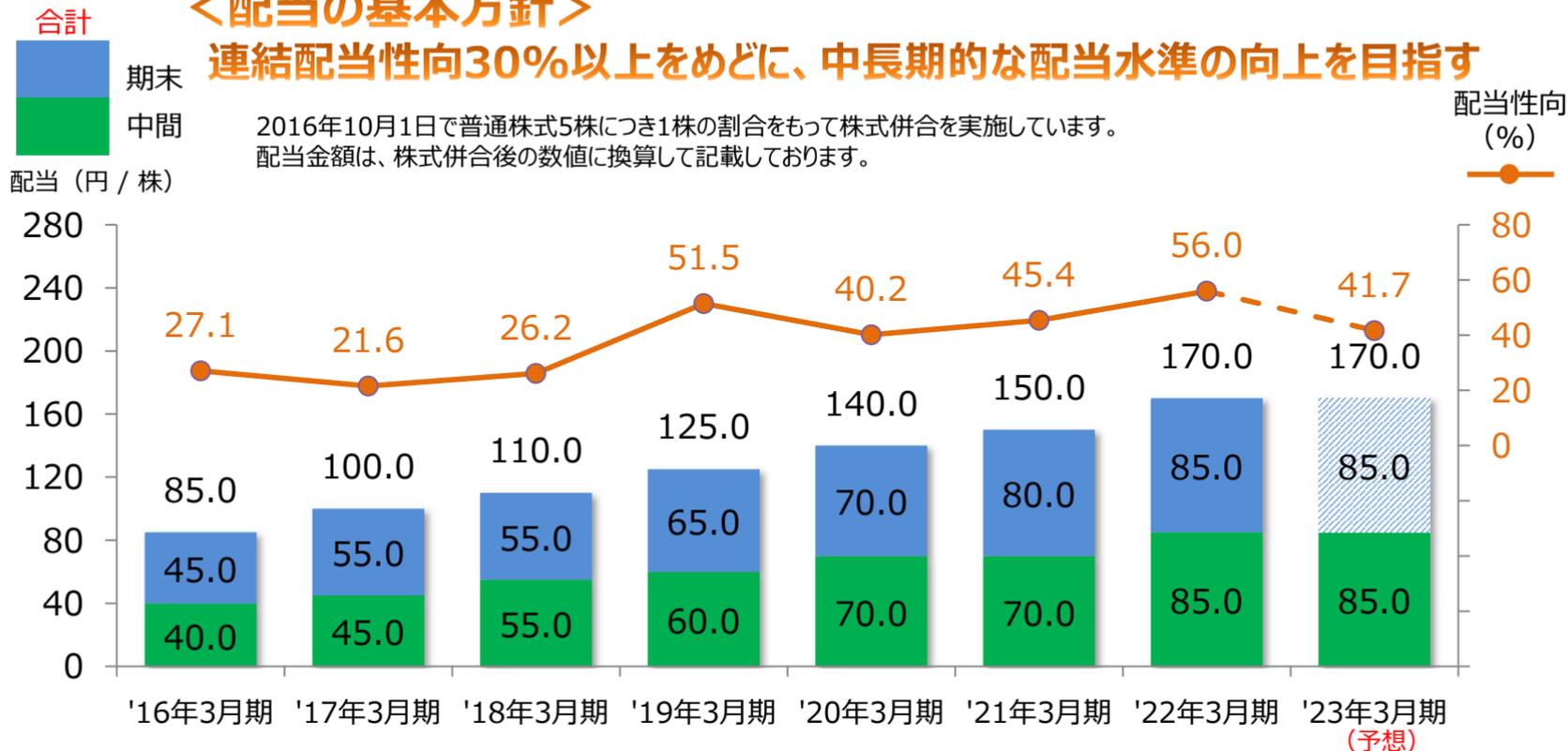


1株当たり配当と連結配当性向の推移

<配当の基本方針>

連結配当性向30%以上をめどに、中長期的な配当水準の向上を目指す

2016年10月1日で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しています。
配当金額は、株式併合後の数値に換算して記載しております。



2-2. 事業TOPICS



三洋化成のありたい姿(Vision)

全従業員が誇りをもち、働きがいを感じる
グローバルでユニークな高収益企業に成長する



多様な一人ひとりの新しい発想を源泉に、
当社と全ステークホルダーの「ちから」を掛け合わせ、
スピード感ある挑戦を実行し続けることで化学の枠を越えてイノベーションを起こす

社是「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」

実現したい社会

- ・環境と調和した循環型社会
- ・健康・安心にくらせる社会
- ・一人ひとりがかがやく社会

Sanyoの貢献

環境を支える

カーボンニュートラルへの貢献

人とくらしを支える

QOLの向上

多様性を支える

働きがいの向上

大切にすること
(Values)

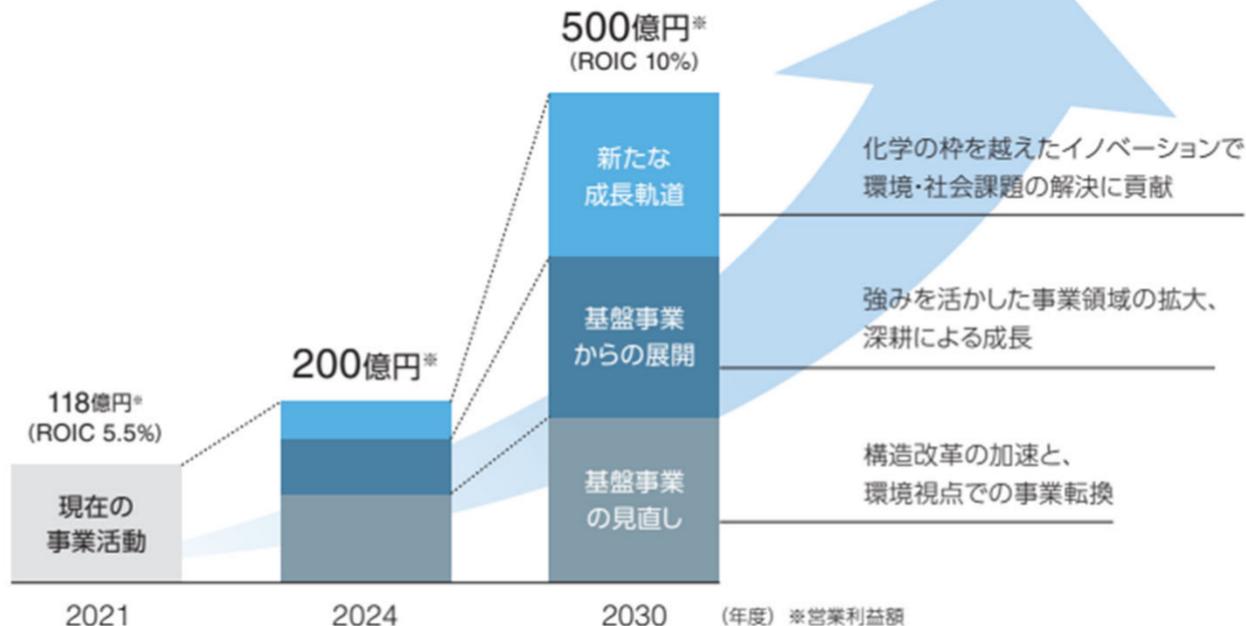
- ・すべてのステークホルダーのワクワク
- ・環境・社会的価値と経済価値をステークホルダーと共創*
- ・社員一人ひとりが価値の創出に貢献

*) 共創：全ステークホルダーと共に価値を築き上げていく

2030年のありたい姿へ

Vision

全従業員が誇りを持ち、
働きがいを感じるグローバルで
ユニークな高収益企業に成長する



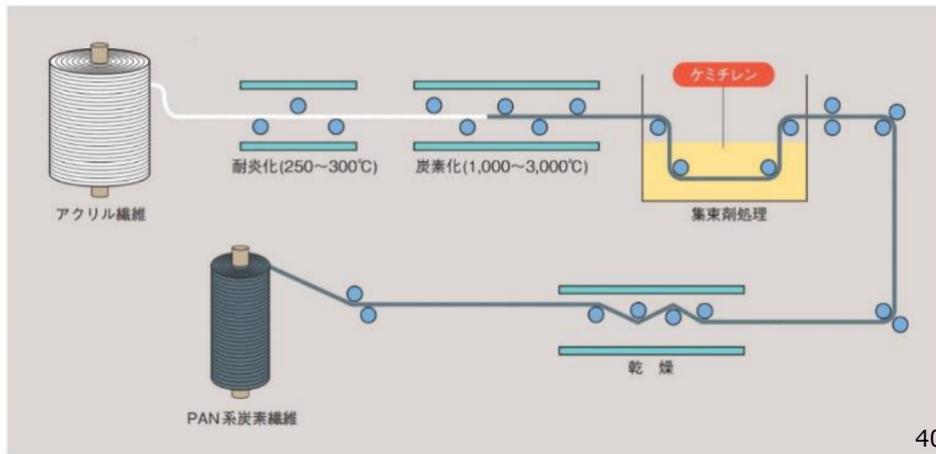


炭素繊維集束剤『ケミチレン』

炭素繊維製造工程で使用される。
近年、再生可能エネルギー需要の高まりから風力発電用に炭素繊維は多く使用され、ケミチレンの需要も高まっている

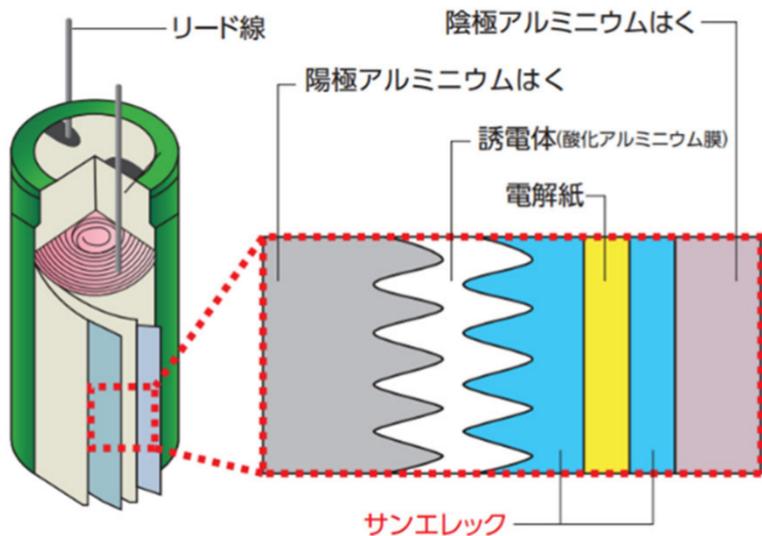
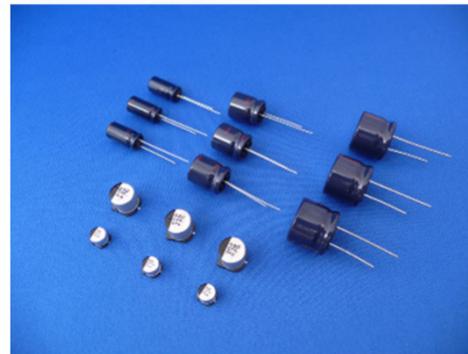
投資金額約7億円、2024年5月稼働
予定で、現在の生産能力から5割程度
の能力増強

2030年には、現在の売上高を2倍程度
まで引き上げる



アルミ電解コンデンサ用電解液『サンエレクト』

三洋化成独自開発したアミジン化合物を用いた電解液で、イオンの移動速度はそのままに、発生アルカリを中和し無害化。コンデンサ業界最大の課題であった液漏れを克服



自動車の電装化、EVの拡大等コンデンサ需要の急激な増加に対応するため、投資金額約4億円で、3割程度の能力増強を行う。2023年5月の稼働予定



新プラントの外観

永久帯電防止剤『ペレスタット』『ペレクトロン』

電子機器・精密部品の包装・搬送材料用途を中心とした需要増に加え、防爆用途などの用途拡大が進展
タイの関係会社サンヨーカセイ（タイランド）リミテッドでの新製造設備が稼働開始

総投資額：34億円

生産能力：1,500トン/年

（日本、タイの合計生産能力は4,700トン/年）

ニッチで高付加価値製品である既存事業の利益拡大へ

新規事業の動向(バイオ・メディカル事業)

『富士フィルム三洋化成ヘルスケア株式会社』が10月から体外診断用医薬品の製造を開始
(2022年6月設立、富士フィルム51%、三洋化成49%)

自動化学発光酵素免疫分析装置 「Accuraseed®」の専用試薬を製造



**富士フィルム和光純薬、三洋化成が有する設備・人材・製造ノウハウを
組み合わせた高い生産性の実現、一体組織運営の下での意思決定の
さらなるスピードアップを図る**

－富士フィルム三洋化成ヘルスケアの概要－

所在地：三重県三重郡菰野町

代表者：岡田 美広

資本金：1億円（出資比率 富士フィルム51%、三洋化成49%）

設立日：2022年6月17日

新規事業の動向(APB関連)

全樹脂電池向け被覆活物質

APB株式会社にて運営・事業化を目指している全樹脂電池

 APB



全樹脂電池事業に関する三洋化成の役割

APB株式会社：全樹脂電池の事業運営、量産化等の経営

三洋化成：キーマテリアル（被覆活物質）の供給に専念し、
性能強化に貢献

**三洋化成が保有するAPB株式の一部をTRIPLE-1へ譲渡
(保有比率44.2%→10.0%へ)**

開発フェーズでは、APB経営リソースが十分では無かったことから
APBの経営支援をしつつ、全樹脂電池の開発をサポート



量産フェーズに入り、三洋化成はキーマテリアルである**被覆活物質**
の開発供給体制確立に専念

APBとしては、将来的な事業成長のための**新たなパートナー企業**
との連携を模索

今回、APBからの申し入れがあり、TRIPLE-1に株式を一部譲渡

三洋化成は、電池関連分野を成長分野と位置付け注力

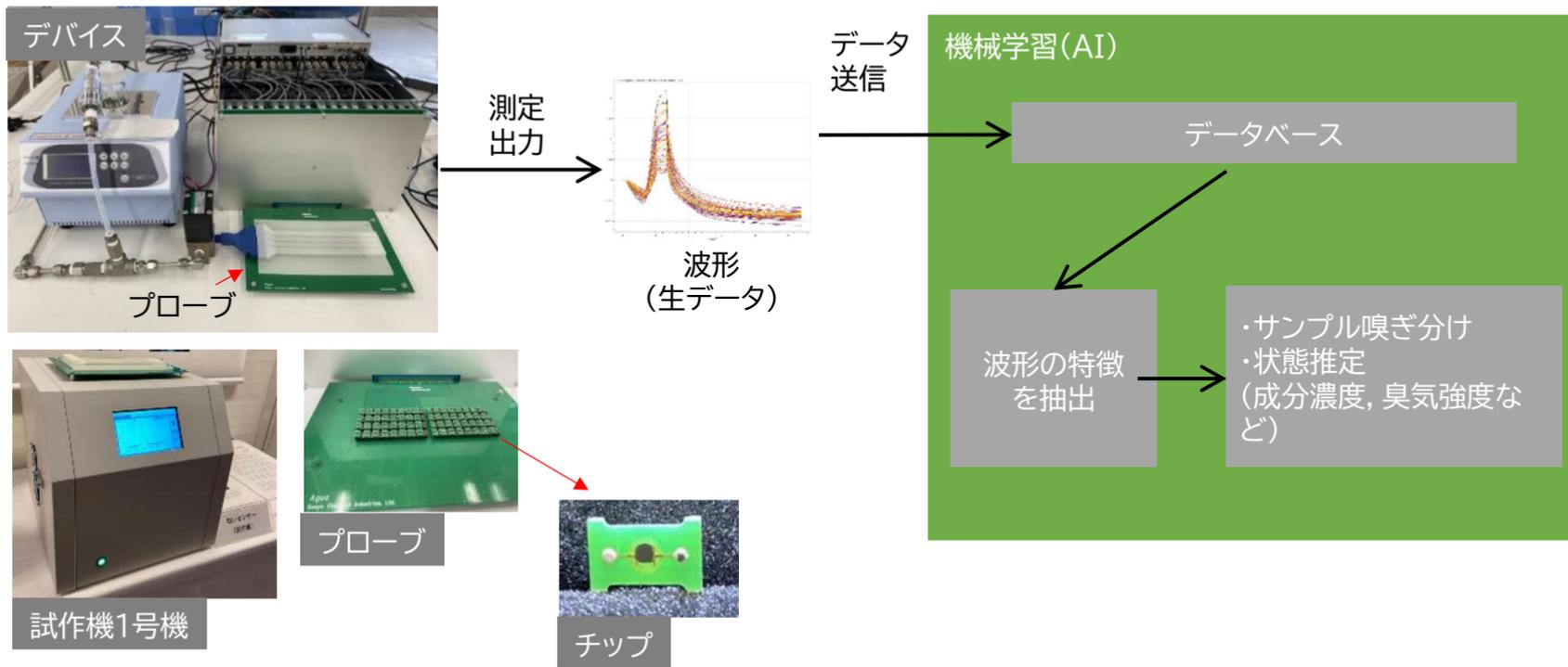
界面制御技術をコアテクノロジーとした新素材開発を多角的に検討

一例) リチウムイオン電池用有機正極材料の開発

他社との協業で、正極部材を無機物から有機物
にすることで、さらなる軽量化を図る

コアテクノロジーが活かせる分野への“選択と集中”による
経営資源の投下による利益性向上へ

新規事業の動向(匂いセンサー)



新規事業の動向(アグリ/ペプチド農業)

持続可能な農業システムの構築へ

宮崎県新富町との連携協定に基づき、三洋化成の技術群を駆使したペプチドの実証試験中

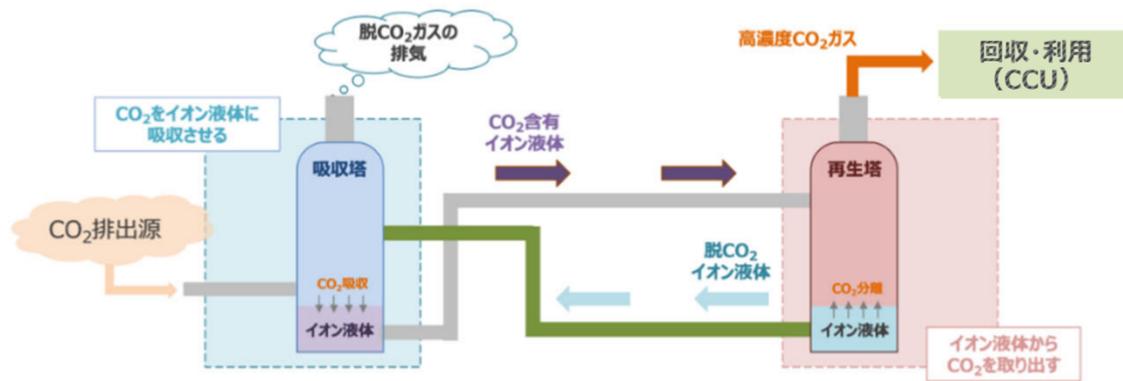


必要な物を、必要な時に、最適な方法で植物に届ける
安全安心な作物と食品を実現できるシステムをパートナーと協創

新規事業の動向(CCU)

CCU : **C**arbon dioxide **C**apture, **U**talization
～CO₂回収・利用～

CO₂ガス吸収の仕組み



アルミ電解コンデンサ用電解液に用いるイオン液体を応用し、CCUの効率的なシステムへの活用を検討
大気圧（低圧力）下で、煙道ガスや空気中からのCO₂分離などへの適用を目指す

CORPORATE PROFILE 2022

会社案内

化学の
ちからで
化学の枠を
越える。



化学のちからで 化学の枠を越える。

引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

